

イアコーンサイレージの生産・利用

背景と課題

近年、粗飼料の自給率は70%程度ですが濃厚飼料は10%程と低く、
 国産の濃厚飼料の生産が求められています。そこで、冬野菜栽培が盛んな本県
 では、夏場の畑で育てたトウモロコシの雌穂を飼料に、茎葉を肥料として使用
 するイアコーンサイレージの生産を推進しています。



研究の目的

イアコーンサイレージは牛の飼料として使用可能な品質調査等を行い、トウモロコシの茎葉
 は圃場にすき込み、緑肥としての効果などを検討しています。

研究の内容および成果

夏は使用されない冬野菜用のほ場でイアコーン用トウモロコシを栽培し、コントラク
 ター組織が専用収穫機でイアコーン収穫を行い、畜産農家が飼料に利用し、野菜農家はイ
 アコーン収穫時に刈り落とされた茎葉を緑肥に利用する耕畜連携による生産体系の技術開
 発を進めています。これまでの研究で、イアコーン用トウモロコシの奨励品種が判明しま
 した。



播種

耕種農家



専用収穫機(スナッパヘッド)での収穫



緑肥の効果で野菜の発育は良好



茎葉は緑肥に



緑肥&飼料
 耕畜連携

密封して品質低下を防ぐ



畜産農家



香りが良く、牛の嗜好性(食いつき)も良好

表1 イアコーン有望品種収量成績

品 種 名	播種月	相対熟度	乾物収量 ^{注)} (kg/10a)
パイオニア 115日	4月	115	1,212
ロイヤルデント TX1334	4月	115	1,139
タカネスター	4月	113	1,139
ゆめそだち	5月	125	1,451
スノーデント SH4812	5月	125	1,250
スノーデント おとは	5月	127	1,138

注) 3年程の平均。栽植本数 6,700本/10a。

イアコーン用トウモロコシでは
 雌穂が大きく、倒伏しにくいものが
 有望品種です。